

新たな試み！津波避難訓練

相良中特集

CS通信 第8号



第1回の学校運営協議会の中で、永田校長先生から、「相中は、津波の警報が出たとき、4階に逃げるようになっていられるけれども、4階に到達するような津波が来た場合、次に逃げる場所がない。また、津波の到達が30分後とか、1時間後と言われた時、4階で津波が来るのを待つしかできないのか。昨年、大川小学校の津波訴訟において、学校や市に、ハザードマップの信頼性を独自に検討し、子供を守る注意義務や事前の備えを課す判決が出される中、津波

浸水区域外の大沢公園(ツタヤ, Seria横)に避難することができないか。避難に何分かかるか知るためにもやってみよう。」と、防災への思いを語ると、バラエティーに富んだ運営協議会の委員から、「ぜひ地域と一緒に子どもたちを交えた自主防災の組織をつくろう」と力強い意見が飛び交い、士気が高まる協議が行われたことを覚えています。

今回の津波避難訓練は、この校長先生の思いを形にし、生徒が大沢公園まで避難することが実施されました。さすがに、運営協議会主催ではありませんが、吉永CSディレクターが、学校支援本部の八木さんに連絡を取り、7名の地域の方がボランティアとして、信号機のある2箇所の交差点に立ってくださり、安全面に配慮しました。その時の様子を少し記載します。



9月11日14:50 地震発生。(教頭先生の放送による指示)

14:51

教頭先生から放送による指示が出されました。「地震がおさまりました。通常ならば、4階に移動し、状況を確認しますが、コロナウィルス対策のため、本日は行いません。今回は、津波到達までに1時間を超えるとされる津波警報が発令されたと想定し、大沢公園までの避難を行います。各学級、担任の先生の指示で、大沢公園まで移動しなさい。」

く上履きのまま、学級ごと大沢公園に早歩きで避難が始まりました>

※私は、マツヤ電気駐車場から生徒の避難、大沢公園の集合を観察させてもらいました。その時の様子、あるいは、感じたことを記載します。



・担任を先頭に、学級ごと黙々と歩いてきます。交差点でもあわてることなく、歩行者の信号に従い整然と通り過ぎていきます。どの学年の生徒も、学級ごとまとまり大沢公園に向かって歩いて行きます。

400名余の生徒が通り過ぎたとは思えないほど、スムーズに、そして、一切生徒の声も聞こえず、ましてや先生方の注意するような声も聞こえませんでした。



<大沢公園>校長先生の講評から、避難に「16分44秒」かかったことがわかりました。また、本当に地震が起これば、放送が入らないことや、信号が停電で止まっていること等、色々な状況が考えられることが話されました。その投げかけに、「その時、どう動くのか」を、汗をいっぱいかきながらも考える相中生の姿がありました。避難訓練を、やらされる活動ではなく、命の問題として捉えていることが伝わってきました。そして、避難の様子に、「校長として、避難訓練に臨む姿勢を誇りに思う」という言葉もありました。私も、そして、地域のボランティアで参加した皆さん

も、素晴らしい相中生の学びに向かう姿を見ることができ感動しました。

校長先生から「どれくらいかかるかがわかった。」「走れば10分程度だろうという予測もたつようになった。」という話も避難訓練後に聞くことができました。この訓練をもとに、学校運営協議会が関わりながら地域と一緒に、子どもたちを交え、より安全な避難の道が、さらに自主防災の組織が探られることを期待します。

<CSとCSディレクター>

牧之原市のCSディレクターは、学校運営協議会の事務局と地域学校協働活動のコーディネートという仕事があります。

昨年まで、学びの支援として、講師や行政への依頼は、先生(授業者や分掌担当)が直接行っていました。今回の避難訓練では、CSディレクターが地域学校協働本部の八木さんに相談し、地域の方7名がこの活動にボランティアで参加してくださいました。また、相中のホームページを見るとCS通信2号が掲載されており、この地域の講師も吉永CSディレクターがつけてくれたようです。吉永CSディレクター、着々と地域と学校を結び付けてくれています。そして今後、相良中運営協議会委員の皆さんは、2年生の面接指導を行ってくださるようです。相良中コミュニティスクールも着実に動き始めています。



吉永CSディレクター

地域ボランティアの方々